

その他ご参考

お彼岸

「彼岸」の意味は、この世の迷いを離れて悟りの彼の岸に達するということで、三月の春分の日・九月の秋分の日を「お彼岸の中日」として前後一週間をいいます。お寺では彼岸法要が行われますので、菩提寺に詣でお経捧げて祖先の供養し、お墓参りをして墓所を清め花や香を供えます。また、自宅では仏壇を開いてお花やお香と故人の好物などを供えして、お寺様の読経をいただいて崇祖の念を新たにいたします。

キリスト教では、彼岸に相当する日として十一月二日の万靈節があり、墓地を清めお花を供えて故人の冥福を祈ります。

お盆

「お盆」は、毎年八月十三日から十六日まで自宅へ先祖の靈を迎えて送るまでの「たまつり」の行事のことをいい、十三日に迎え火を、十六日に送り火を焚きます。前年のお盆以降に亡くなられた場合には、その靈に対して初めてお宅へお迎えするので「新盆」もしくは「初盆」として特に新仏のお供養を致します。

仏式の焼香のしかた

- 1、数珠を左手に持ち、祭壇の少し手前で遺族と僧侶に一礼する。
- 2、仏前で数珠を掛け、合掌する。
- 3、数珠を左手にかけ香を右手の指先でつまみ、軽く頭を下げて
おしいただく。(真宗系では、おしいただかない)
- 4、香をそっと香炉に落とす。
(焼香の回数は、宗派によって違いがある。)
- 5、焼香が終わったら合掌する。
- 6、そのまま祭壇から後退し、遺族と僧侶に一礼して席に戻る。

宗派別焼香の回数

天台宗	1、3回
真言宗	3回
浄土宗	1～3回
浄土真宗本願寺派(お西)	香を額におしいただかず1回
真宗大谷派(お東)	香を額におしいただかず2回
臨済宗	1回

曹洞宗	2回（1回目は香をおしいただき、 2回目はそのまま香炉に落とす）
日蓮宗	1、3回

神式 玉串奉奠の作法

- 1、祭壇の前に進み、遺族、神官に一礼し、神官から玉串を受け取る。この時、枝の根本を右手で上からつまむようにし、左手で葉の方を下から捧げ持つような形で受け取る。
- 2、祭壇前の玉串を置く台（玉串案）の前まで進み、玉串を目の高さに捧げて神前に一礼する。
- 3、玉串を時計回りに回転させて根元を祭壇に向け、根元を左手に持ち替え、両手を添えた状態で玉串案に置く。
- 4、正面を向いたまま三歩後退し、二礼二拍手（音を立てない）、一礼する。
- 5、遺族、神官に一礼して席に戻る。

玉串について

玉串は、榦の枝に紙垂（しで）という紙片をつけたものです。故人の靈を慰め靈が安らかであることを祈って、玉串を捧げます。

キリスト教式 献花のしかた

- 1、祭壇の前に進み係りの人から花を受け取る。
- 2、花が右手になるように持ち、祭壇に向かって一礼する。
- 3、花の根元を祭壇に向かって献花台に捧げ、深く一礼する。
- 4、遺族、司式者（神父、牧師）に一礼して席に戻る

友引のいわれ

「友引」とは先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口の順で循環する中国の暦法で、旧暦正月一日が「先勝」、二月の一日から「友引」を当てて、六日毎に循環する仕組みです。本来の「友引」の意味は、孔明六曜星では「相打ち共引きとて、勝負無しと知るべし」とされ、引き分けの意味です。ですから「友を引き寄せて一緒に冥土に連れて行く」ので、友引に葬儀を行っていけないという慣習は、言葉のゴロ合わせに起因する俗信にすぎません。

弔事で気をつけたい言葉

お悔やみの席や弔事・弔電では使わないように心がけたい言葉があります。言葉づかいには充分な注意が必要です。

●「重ねる」「くりかえし」を意味する言葉は使わないようにします。
かさねがさね・かえすがえすも・それはそれは・またまた・
いよいよ・再び・度々・再三再四・重ねて・追って・
続けて・引き続き

●生死を直接表現する言葉は、別の言葉に言い換えます。

死　亡→ご逝去、ご永眠　生存中→ご存命中、ご生前

●仏式では「迷う」「浮かばれない」などの言葉は、成仏できない意味が含まれていますので使用を避けます。

●神式やキリスト教式では、仏教用語を用いないようにします。

故人の経歴

ふりがな

故 殿

生年月日

明大昭平 年 月 日生
(享年 才)

出生地

都道府県 市町村

父 殿 続柄

母 殿 (何人兄弟姉妹の)

人柄

()

趣味 ()

嗜好 ()

心優しい・温厚・親切・世話好き・ほがらか・誠実・情深い・
円満・家庭的・子煩惱・謹み深い・豪放快活・勤勉・仕事一途
努力家・献身的・一本気・厳格・責任感のある・正義感の強い
知性的・その他

学歴 年卒業
()

職歴 年入社 (年家業を継ぎ)
()

公職
()

受賞
()

故人の結婚生年月日

年 月 日 配偶者 ()

子供 (人)

御家族の職業または学校
()

故人の生涯で特筆すべきこと (エピソード)
()

療養期間および場所

年 月 日より 日間自宅で

年 月 日より 病院で

病名（病状）

月 日午前（午後） 時 分ご逝去

喪主挨拶例（お持ち帰りの場合）

読経が終わり次第、先にお寺様のところに御挨拶に行かれるか、皆様に御挨拶されるか決めておく。先にお寺様に御挨拶に行かれる場合は皆様に対して（これよりお寺様のにご挨拶に行きますのでその場にて少々お待ち下さい。）と一言付け加えてお待ちいただくようとする。また、先に皆様に御挨拶される場合は、お寺様のところに行く間、ご親戚の方々にお手伝い頂いた方々への引き物を渡してもらうようとする。

遺族親族を代表致しまして、一言御礼を述べさせていただきます。
この度の〇〇の葬儀に際しましては、皆様方にはいろいろとご尽力を賜わり、かつまた、丁重なるご香料・お供物等を賜わりまして、誠にありがとうございました。

皆様方のお陰様をもちまして、葬儀万端滞りなく相すますことができ、亡き〇〇も草葉の陰（真宗系ではお浄土）で皆様に厚く感謝していることと存じます。

本来であれば皆様方には一席もうけなければならないところですが、

- ・この地区の生活改善運動のため、
- ・町内会の方針のため、
- ・お車で来られる方が多いため、
- ・その他の理由

大変失礼かと存じますがお持ち帰りの料理を用意させていただきましたので御自宅にて故人を偲んでいただければ幸いかと存じます。簡単ではございますが、これをもちまして御礼の言葉とさせていただきます。この度は、誠にありがとうございました。

喪主挨拶例（会食の場合）

親族の方でお手伝い頂いた皆様を席に着かせ全員が席に着いたら
お寺様をご案内し御礼のご挨拶をする。

遺族親族を代表致しまして、一言御礼を述べさせていただきます。
この度の〇〇の葬儀に際しましては、皆様方にはいろいろとご尽力を賜わり、
かつまた、丁重なるご香料・お供物等を賜わりまして、誠にありがとうございました。

皆様方のお陰様をもちまして、葬儀万端滞りなく相すますことができ、亡き
〇〇も草葉の陰（真宗系ではお浄土）で皆様に厚く感謝していることと存じ
ます。本席はさしたる用意もございませんが、故人を偲び、ご歓談下されば
幸いかと存じます。簡単ではございますが、これをもちまして、御礼の言
葉とさせていただきます。どうぞお召し上がり下さいませ。